

2017年2月19日(日)

説教:「天の国に生きる」

聖書:マタイによる福音書13章44~50節

イエスは「天の国」のことを三つの譬えで話された。「畑に隠された宝の譬え」、「高価な真珠の譬え」、「網を打つ漁師の譬え」である。その意味は、神は私たちを「宝」「真珠」と譬え、高価なものとして全てを売り払ってでも私たちを天の国に入れてくださるという。「網」はまた、教会であり、世界のこと。その世界に良い者と悪い者がまざっている…そして、悪い者は「燃え盛る炉の中に投げ込まれ…」とある。やはり天の国は恐ろしい？ ただ神は、こんな罪深い者を「宝」として見ておられ、私の立って居るところで天の国を建て上げるという。神が人となられたという御業の中に、その意味があるということを覚えたい。

では私たちは、神を宝としているか？ 私たちは神を覚え、礼拝を大事にしているのか？ 主を喜ぶ礼拝を奉げているか？ そのことも問われながら、「神様、時々ごめんなさい」と悔い改めも覚えながら、神を私たちの宝としたい。

今、神が宝としている隣人がないがしろにされている世界がある。沖縄における軍事基地問題は、まさにそれである。辺野古新基地建設工事再開で大型コンクリートブロックが辺野古の海に次々に投下されている。重量13トン以上ものブロックのかたまりが228個も投下される。サンゴが潰され、魚が潰され、辺野古の海が潰されて行く。戦争のための軍事基地は“もういらぬ”ということを私たちは、私たちに出来るところから、声を上げ続けなければならない。

その中で、先週うれしいことがあった。京都の牧師から連絡があり、「京都ゴスペル」を始めたとの連絡。今、普天間基地ゲート前ゴスペルから、次々に各地に沖縄の基地の現状を覚えて、隣人と共に生きる意味において、各地にゴスペルを歌う会が起こされている。9番目のゴスペルである。基地の無い、フェンスの無いところで声を上げて行くことは、ある意味辛いことであろう。しかし隣人と共に生きる、神が愛しておられる友と共に生きるという意味において、ゴスペルが歌われて行くのである。そして、もう一つ、嬉しかったこと。同じゴスペルを歌う会の岡山から、岡山産のお米15キロ分が教会宛に届いた。食べ物が届くというのは、また嬉しいこと。どのように分けようかと悩むが。

「天の国に生きる」とは、神が一人ひとりを「宝」と見ておられるように、イエス・キリストが、小さくされた一人ひとりと向き合い、共に生きることをされたように、私たちも隣人と共に生

きるということが、「天の国に生きる」ということではないかと思う。この世の権力者が、そのこととは真逆な状況にあることを憂うものだが、されど「天の国」の希望に生きる者とさせて頂きたい。(神谷)